

2. 市民ヒアリング調査結果

2. 市民ヒアリング調査結果

2-1 市民ヒアリング調査の概要

1) 調査の目的

今後の買い物支援策のあり方を検討するため、市民の方々から直接、買い物における実態や買い物支援策へのニーズなどを的確に捉えるとともに、平成 25 年 7 月に実施した市民アンケート調査を補足するものである。

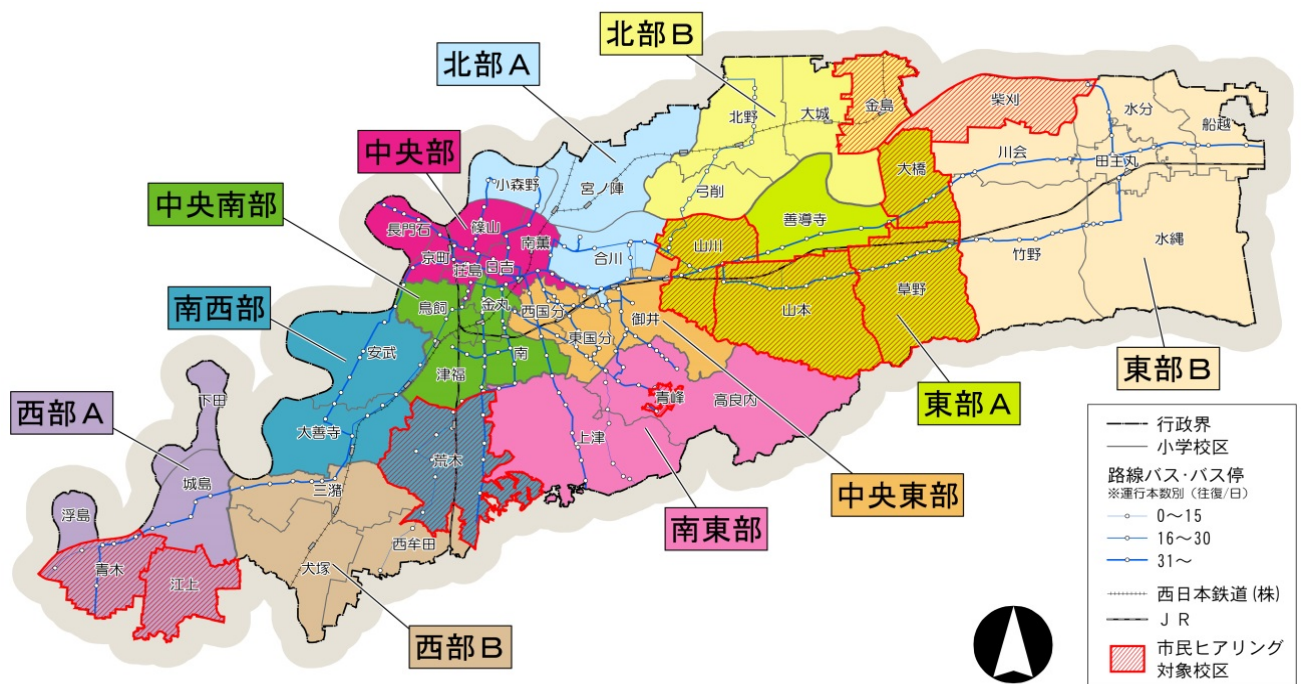
2) 調査対象、方法など

①調査対象者

10 校区（山川、山本、草野、荒木、大橋、青峰、柴刈、金島、江上、青木） 122 人

※市民アンケート調査結果の「問 17 自宅周辺での買い物における不便」と「問 19 買い物における移動の不便」の質問に対して、「不便を感じている」という回答割合の合計値が高かった校区から上位 10 校区を抽出した。また、対象者については、校区にて実施される催事の参加者などに調査へのご協力をいただいた。

(参考：圏域図)



②調査方法

個別面談にて実施。（1人あたり20～30分の聴き取り）

③調査期間

平成25年9月8日～9月26日

④市民ヒアリング調査項目

- (1) 対象者の属性について
- (2) 普段の買い物行動や不便状況について
- (3) 公共交通機関の利用状況や移動支援サービスの利用意向について
- (4) 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

3) 分析上の留意点

○回答いただいた内容については、わかりやすくするために修正した部分や類似した複数の意見を統合した部分などがあるが、原文の意味を変えるような修正は行っていない。

2-2 市民ヒアリング対象者の概要

対象者計122人の校區別、男女別、年齢別、世帯状況別、買い物時の交通手段別の内訳は次の通りとなっている。

1) 対象者の校區別、男女別、年齢別の状況

表 5 対象者の校區別、男女別、年齢別内訳

No.	校区 (圏域)	性別	65歳未満	65歳以上・ 70歳未満	70歳以上・ 75歳未満	75歳以上・ 80歳未満	80歳以上・ 85歳未満	85歳以上	計
1	山川 (東部A)	男性			5	2			7
		女性	1	1	1	1			4
		計	1	1	6	3			11
2	山本 (東部A)	男性							
		女性	2	5	2	1			10
		計	2	5	2	1			10
3	草野 (東部A)	男性			2	3	1		6
		女性			2	2	2		6
		計			4	5	3		12
4	荒木 (南西部)	男性							
		女性	1	5	8	3	2		19
		計	1	5	8	3	2		19
5	大橋 (東部A)	男性				1	1		2
		女性		1	2	5	3	1	12
		計		1	2	6	4	1	14
6	青峰 (南東部)	男性					3	1	4
		女性			2	4	1		7
		計			2	4	4	1	11
7	柴刈 (東部B)	男性		1	2				3
		女性	3	4	1				8
		計	3	5	3				11
8	金島 (北部B)	男性	1	2	1			1	5
		女性				4	1	1	6
		計	1	2	1	4	1	2	11
9	江上 (西部A)	男性							
		女性			3	3	3	1	10
		計			3	3	3	1	10
10	青木 (西部A)	男性							
		女性	8	4	1				13
		計	8	4	1				13
全体		男性	1	3	10	6	5	2	27
		女性	15	20	22	23	12	3	95
		計	16	23	32	29	17	5	122

2) 対象者の校区別、男女別、世帯状況別の状況

表 6 対象者の校区別、男女別、世帯状況別内訳

No.	校区 (圏域)	性別	一人暮らし	二人以上(全員 が65歳以上)	二人以上(65歳 未満の人も含む)	計
1	山川 (東部A)	男性		1	6	7
		女性		2	2	4
		計		3	8	11
2	山本 (東部A)	男性				
		女性		5	5	10
		計		5	5	10
3	草野 (東部A)	男性		3	3	6
		女性	1	3	2	6
		計	1	6	5	12
4	荒木 (南西部)	男性				
		女性	5	5	9	19
		計	5	5	9	19
5	大橋 (東部A)	男性		2		2
		女性	2	1	9	12
		計	2	3	9	14
6	青峰 (南東部)	男性	4			4
		女性	4		3	7
		計	8		3	11
7	柴刈 (東部B)	男性			3	3
		女性	2	1	5	8
		計	2	1	8	11
8	金島 (北部B)	男性		2	3	5
		女性	3	1	2	6
		計	3	3	5	11
9	江上 (西部A)	男性				
		女性	4	2	4	10
		計	4	2	4	10
10	青木 (西部A)	男性				
		女性		3	10	13
		計		3	10	13
全体		男性	4	8	15	27
		女性	21	23	51	95
		計	25	31	66	122

3) 対象者の校区別、男女別、買い物時の交通手段別の状況

表 7 対象者の校区別、男女別、買い物時の交通手段別内訳

No.	校区 (圏域)	性別	徒歩	自転車	バイク	自家用 車(自分 で運転)	自家用 車(自分 以外が 運転、送 迎含む)	バス	タクシー	無回答	計
1	山川 (東部A)	男性		1		6					7
		女性		1			2			1	4
		計		2		6	2			1	11
2	山本 (東部A)	男性				9					9
		女性		1							10
		計		1		9					10
3	草野 (東部A)	男性				5		1			6
		女性				4		2			6
		計				9		3			12
4	荒木 (南西部)	男性				9	3				12
		女性	4	3							7
		計	4	3		9	3				19
5	大橋 (東部A)	男性			1	1					2
		女性			1	10		1			12
		計			2	11		1			14
6	青峰 (南東部)	男性			1	1	1			1	4
		女性	1					6			7
		計	1		1	1	1	6		1	11
7	柴刈 (東部B)	男性				3					3
		女性				7	1				8
		計				10	1				11
8	金島 (北部B)	男性				5					5
		女性		1		3				2	6
		計		1		8				2	11
9	江上 (西部A)	男性				7	1		1		9
		女性		1							10
		計		1		7	1		1		10
10	青木 (西部A)	男性				10	2				12
		女性	1								13
		計	1			10	2				13
全体		男性		1	2	21	1	1		1	27
		女性	6	7	1	59	9	9	1	3	95
		計	6	8	3	80	10	10	1	4	122

2-3 市民ヒアリング調査結果

1) 対象校区全体【対象者は122人】

① 普段の買い物行動や不便状況について

- 買い物時の交通手段は、自家用車（自分で運転）が80人（約66%）であり、自家用車（自分以外が運転、送迎含む）が10人（約8%）、バスが10人（約8%）、自転車が8人（約7%）、徒歩が6人（約5%）、バイクが3人（約2%）、タクシーが1人（約1%）、無回答が4人（約3%）である。
- 普段利用する店までの所要時間は、片道5~15分圏内の方が90人（約74%）と多い。
- 買い物先は、スーパーマーケットと回答している方が104人（約85%）と多い。
- 買い物先を選ぶ理由として、「品ぞろえが充実している」が59人（約48%）、「自宅から近い」が20人（約16%）である。
- 買い物時の移動に対する不便については81人（約66%）が特に感じないと回答している。一方、「送迎してくれる家族が運転できなくなった時には不安を感じる」、「知人や家族に買い物への送迎を頼みにくい」という回答も見られる。

② 公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 電車・バスを利用しない理由は、「運行本数が少ない」、「バス停が遠い」、「購入した荷物を持って帰るのが困難である」という回答が多い。
- 移動支援サービスを望む回答としては、既存バス路線の拡充やタクシー代の補助、コミュニティバスの導入などを合わせると91人（約75%）である。
- 中心市街地まで行く場合に電車・バスを利用する方は、13人（約11%）である。
- 現在は、自家用車を運転している、また、家族に送迎してもらえるため、移動支援サービスの利用意向はないが、買い物に適したルートや通院に適したルートがあれば将来利用する可能性があるという回答している方も見られる。

③ 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 現在、宅配サービスを利用している方は54人（約44%）であり、その理由として「買い物に行く手間が省ける」が15人（約28%）、「安全、安心である」が9人（約17%）、「品ぞろえが充実している」が6人（約11%）である。
- 買い物支援サービスについて、「特に必要ない」と回答しているのは36人（約30%）である。
- 買い物支援サービスを望む回答をしている方は76人（約62%）であり、そのうち、移動販売サービスを望む回答をしている方は29人（約38%）、購入商品の自宅配達サービスを望む回答をしている方は20人（約26%）、スーパーマーケットなどへの送迎を望む回答をしている方は18人（約24%）となっている。
- 移動販売や送迎サービスなどの買い物支援サービスを望む理由としては、「商品を直接見て選びたい」や「外に出るきっかけとして買い物に行きたい」という回答も見られる。

2) 山川校区【対象者は11人】

① 普段の買い物行動や不便状況について

- 買い物時の交通手段は、自家用車（自分で運転）が6人、自家用車（自分以外が運転、送迎含む）が2人、自転車か2人である。（残り1人は不明）
- 合川校区（9人）や善導寺校区（2人）で買い物をしている。
- 買い物先は、対象者全員が片道5～10分圏内のスーパーマーケットである。（残り1人は不明）
- 買い物先を選ぶ理由は、「自宅から近い」、「品ぞろえが充実している」、「行き慣れている」である。
- 買い物時の移動に対する不便については、7人が特に感じないと回答している。一方、「国道までの道のりが面倒である」、「バイパスは渋滞が発生する」などの回答も見られる。

② 公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 前述の通り、対象者全員は自家用車、自転車を利用しており、普段の買い物時には電車・バスは利用していない。ただし、通院や中心市街地のスーパーマーケットへ行く際にはバスを利用している方も見られる。
- 電車・バスを利用しない理由は、「自家用車が便利」、「バス停までの距離が遠い」、「荷物を持つのが体力的につらい」、「バスの運行本数が少ない」である。
- 移動支援サービスの利用意向について、5人が特にないと回答しており、理由は、「まだ、健康であるため」、「家族に送迎してもらうため」、「買い物先を近くの店に変更するため」である。一方、「自分が運転できなくなったら移動支援サービスを利用したい」と回答している方も見られる。
- 移動支援サービスについて、6人が病院や買い物先を経由するコミュニティバスやコミュニティタクシーなどの導入を望むと回答している。また、「事業を導入する際には運賃を安くしてほしい」という回答も見られる。

③ 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 7人が宅配サービスを利用している。その理由は、「家から出る必要がないため助かる」や「商品の品質がよい」である。
- 買い物支援サービスを利用していない理由は、「自家用車を運転できる」や「家族に買い物を頼むことができる」である。
- 買い物支援サービスを望むと回答した方は8人である。内容は、移動販売サービスや購入商品の自宅配達サービス、宅配サービス、スーパーマーケットまでの送迎サービスである。

3) 山本校区【対象者は10人】

① 普段の買い物行動や不便状況について

- 買い物時の交通手段は、自家用車（自分で運転）が9人、自転車が1人である。
- 善導寺校区（7人）や合川校区（2人）、田主丸町（1人）で買い物をしている。
- 買い物先は、最寄りのコンビニエンスストアは、生鮮三品が揃わないため、自宅から離れている片道5～10分圏内のスーパーマーケットである。また、商品の品ぞろえが充実していることを理由に、さらに離れた片道15～20分圏内のスーパーマーケットを利用している方も見られる。
- 買い物先を選ぶ理由は、「自宅から近い」、「品ぞろえが充実している」である。
- 買い物時の移動に対する不便については、6人が特に感じないと回答している。一方、「店まで距離が遠い」、「送迎してくれる家族が運転できなくなった時には不安を感じる」という回答も見られる。

② 公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 電車・バスを利用しない理由は、「自家用車が便利」、「バス停が遠い」、「運行本数が少ない」、「乗換が煩わしい」である。
- 移動支援サービス（コミュニティタクシー）については、「事業自体を知らない」や「利用方法がわからない」という回答も見られる。
- 移動支援サービスの要望としては、バスの停留所や運行本数の増加、身近な場所までのルートの拡充、巡回バスの新設など、コミュニティバスの運行などを望む回答がある。

③ 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 4人が宅配サービスを現在利用しており、2人が以前まで利用していた。また、利用の理由は、「品質がよい」、「安心感がある」といった回答がある。
- 宅配サービスを利用していない理由は、「必要性がない」や「外出する機会があるほうが良い」である。
- 買い物支援サービスについて、3人がスーパーマーケットまでの送迎を望むと回答している。また、移動スーパーや弁当の宅配などを望むと回答している方は3人である。
- 移動販売や送迎サービスなどの買い物支援サービスを望む理由としては、「商品を直接見て選びたい」や「外に出かけるきっかけとして買い物に行きたい」である。

4) 草野校区【対象者は12人】

① 普段の買い物行動や不便状況について

- 買い物時の交通手段は、自家用車（自分で運転）が9人、バスが3人である。
- 自家用車を利用する方は善導寺校区（5人）、合川校区（3人）、田主丸校区（1人）で買い物をしている。また、バスを利用する方は、西鉄久留米駅周辺（3人）で買い物をしている。
- 買い物先は、自家用車を利用している方は片道 5～20 分圏内のスーパーマーケット、バス利用者は片道 30～40 分圏内のスーパーマーケットである。
- 買い物先を選ぶ理由は、「自宅から近い」、「他の店舗が周辺に固まっている」、「品ぞろえが充実している」である。
- 買い物時の移動に対する不便については、9人が特に感じないと回答している。その中で、バスを利用している方では、「バスに乗って出かけることが楽しい」という回答も見られる。

② 公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 電車・バスを利用しない理由は、「自家用車が便利である」、「バスの運行本数が少ない」、「購入する荷物が多い」である。
- 移動支援サービスについては、6人が福祉バスやコミュニティバスの導入などを望む回答をしている。

③ 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 3人が宅配サービスを利用している。その理由は、「重いものを自宅まで配達してくれる」などである。
- 自家用車を利用している方のうち、6人が買い物支援サービスを利用していないと回答している。
- バス利用者の中には、重いものや食材などを購入の際は宅配サービスを利用しているという回答も見られる。
- 買い物支援サービスに対する要望として、7人が特にないと回答しているが、徒歩圏内にコンビニエンスストアなどの立地を望む回答も見られる。

5) 荒木校区【対象者は19人】

①普通の買い物行動や不便状況について

- 買い物時の交通手段は、自家用車（自分で運転）が9人、自家用車（自分以外が運転、送迎含む）が3人、徒歩が4人、自転車が3人である。
- 荒木校区（11人）や上津校区（7人）、合川校区（1人）で買い物をしている。
- 買い物先は、徒歩や自転車を利用している方は、片道5～10分圏内のスーパーマーケット、自家用車を利用している方も、片道5分～10分圏内のスーパーマーケットなどである。
- 買い物先を選ぶ理由は、「自宅から近い」、「他に店舗がない」、「品ぞろえが充実している」、「以前から、利用している」である。
- 買い物時の移動に対する不便について、自家用車を利用している方は、特に感じないと回答している。また、徒歩や自転車の方は「交通量が多く、危険である」と回答している。

②公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 電車・バスを利用しない理由は、「自家用車が便利」や「自宅または目的地とバス停が遠い」である。
- 移動支援サービスの利用意向について、14人が特にないと回答しており、その理由は、「家族に買い物を頼むことができる」や「立地環境に恵まれているため、必要性を感じていない」、「元気なうちは関心がない」などである。
- 現在は、自家用車を運転しているため、移動支援サービスの利用意向はないが、買い物に適したルートや病院などの通院に適したルートがあれば、将来利用する可能性があるとは回答している方も見られる。

③買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 8人が宅配サービスを利用している。その理由は、「商品の品質がよい」や「配達された時の交流が楽しい（共同宅配）」である。なお、価格面に対して改善を求める回答も見られる。
- 買い物支援サービスを利用していない方の11人中3人は、「将来的に利用することになるかもしれない」と回答している。
- 買い物支援策の要望について、購入した商品が大きいものや重いものについての無料配達サービスや「自分の目で見て選びたい」という理由から移動販売サービスを望む回答が多い。

6) 大橋校区【対象者は14人】

① 普段の買い物行動や不便状況について

- 買い物時の交通手段は、自家用車（自分で運転）が11人、バイクが2人、バスが1人である。
- 善導寺校区（7人）、合川校区（3人）、田主丸校区（4人）で買い物をしている。
- 買い物先は、対象者全員が片道10～20分圏内にあるスーパーマーケットなどである。
- 買い物時の移動に対する不便については、13人が特に感じないと回答している。一方、バス利用者からは、「トイレトペーパーなど大きい荷物の持ち帰りが体力的にきつい」などの回答も見られる。

② 公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 電車・バスを利用しない理由は、「バスの運行本数が少ない」、「自宅からバス停までが遠い」、「バス停から目的地までが遠い」、「荷物が多いため体力的につらい」である。
- 移動支援サービスの利用意向について、コミュニティバスやタクシー代の補助、時間と乗降場所に自由度がある公共交通機関などの導入をした場合に利用の可能性があると回答も見られる。
- 移動支援サービスの利用意向について、9人が特にないと回答している。しかし、中には、「移動支援サービスが導入されれば便利である」や「将来的に移動支援サービスが必要になる」という回答も見られる。

③ 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 8人が宅配サービスを利用し、「品ぞろえが充実している」、「配達してくれるので助かる」という回答がある。また、「日常的に必要なため利用しているが、商品の受け取りが面倒である」、「前もって商品を選ぶことが難しい」という回答も見られる。
- 「家族に頼むことができる」、「自宅周辺にお店がある」と回答している方は、買い物支援サービスの利用意向について、特にないと回答している。
- 買い物支援サービスの要望としては、「重い商品を購入する際は宅配・自宅配達サービスを利用したい」、「日用品や生鮮三品の購入については地域にミニスーパーなどが欲しい」という回答が見られる。

7) 青峰校区【対象者は11人】

① 普段の買い物行動や不便状況について

- 買い物時の交通手段は、バスを利用している方が6人、自家用車（自分で運転）が1人、自家用車（自分以外が運転、送迎含む）が1人、バイクが1人、徒歩が1人である。（残り1人は不明）なお、バスを利用している方のうち、毎日買い物に行っていると回答した方は3人である。
- 西鉄久留米駅周辺（5人）や東国分校区（2人）、上津校区（2人）、御井校区（1人）で買い物をしている。
- 買い物先は、自家用車を利用している方は、片道10～15分圏内のスーパーマーケット、バスを利用している方の内5人は片道20～30分圏内にある西鉄久留米駅周辺のスーパーマーケットである。
- 買い物先を選ぶ理由は、「商品の値段が安い」、「品ぞろえが充実している」、「商品の鮮度が保たれている」である。
- 買い物時の移動に対する不便については、7人が特に感じないと回答している。一方、「知人や家族に買い物への送迎を頼みにくい」、「バスの運行本数が少ない」という回答も見られる。

② 公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 前述の通り、バスを利用している方が多いが、運行本数に満足している方、不満に感じている方に分かれる。また、「西鉄久留米駅までバスで出かけるのが楽しみである」という回答も見られる。
- 移動支援サービスの要望として、既存路線バスの継続やコミュニティバスなどの導入、タクシー代の補助を望む回答も見られる。

③ 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 4人が移動販売サービスを利用している。また、日常生活に必要なサービスのため、利用しながらも品ぞろえや価格面への改善を求める回答がある。
- 以前、宅配サービスを利用していた方の、利用をやめた理由は「商品を見て買いたい」、「カタログを見て注文するのが面倒である」、「配達料金が高い」である。
- 買い物支援サービスについて、購入商品の無料配達サービスや店舗までの送迎を望む回答がある。

8) 柴刈校区【対象者は11人】

① 普段の買い物行動や不便状況について

- 買い物時の交通手段は、自家用車（自分で運転）が10人、自家用車（自分以外が運転、送迎含む）が1人である。
- 田主丸校区（10人）、朝倉市（1人）で買い物をしている。
- 買い物先は、対象者全員が片道10～15分圏内のスーパーマーケットである。
- 買い物先を選ぶ理由は、「品質が良いから」、「行き慣れている（商品がどこにあるかわかる）」、「併設する他の店舗も利用する」、「ポイントカードがある」である。
- 買い物時の移動に対する不便については、5人が特に感じないと回答している。一方、「買い物する場所が遠い」、「バスの運行本数が少ない」、「道路が狭く、危険である」という回答も見られる。

② 公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 電車・バスを利用しない理由は、「バス停までの距離が遠い」、「購入した荷物を持って帰るのが大変である」、「運行本数が少ない」である。
- 中心市街地へ行く際には電車・バスを利用しているという回答も見られる。
- 移動支援サービス（福祉バス）の利用状況は、10人が特にないと回答している。その理由は、「自家用車を利用するので必要ない」、「運行本数が少ない」、「目的地まで時間がかかる」である。
- 移動支援サービスについては、「運行本数の増加」や「買い物の送迎サービス」、「買い物に利用しやすい経路設定や停留所の増設」、「公民館行事がある際の送迎サービス」など様々な回答が見られる。

③ 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 5人が宅配サービスを利用しており、「品質がよい」という回答がある。また、日常生活に必要なサービスのため、利用せざるを得ない状況の中、価格面への不満もある。
- 宅配サービスを利用していない理由は、「自家用車を利用しているため」、「一人分としては量が多すぎるため一人暮らしになって宅配を辞めた」である。
- 大きいものや重いものの配達（家具、電化製品など）は、通販やテレビショッピングも利用している。
- 4人が、買い物支援サービス全般について、「自家用車が運転できるため、あまり考えたことがない」と回答している。
- 購入商品の自宅配達サービス、電話注文による宅配、スーパーマーケットまでの送迎サービス、コンビニエンスストアの立地を望む回答が見られる。

9) 金島校区【対象者は11人】

① 普段の買い物行動や不便状況について

- 買い物時の交通手段は、自家用車（自分で運転）が8人、自転車が1人である。また、宅配サービスや近くに住む子に頼むなど、買い物目的での外出をしていない方が2人である。
- 大城校区（4人）や合川校区（2人）、大刀洗町（3人）で買い物をしている。
- 買い物先は、片道5分～10分圏内のスーパーマーケットである。また、商品の品質や品ぞろえが良いことを理由に、さらに離れた片道25～30分圏内のスーパーマーケットを利用している方もいる。
- 買い物先を選ぶ理由は、「自宅から近い」、「品ぞろえが充実している」、「商品の値段が安い」である。
- 買い物時の移動に対する不便について、自家用車を利用している方は特に感じないと回答しているが、自転車を利用している方は、「悪天候時の移動は避けている」、「道路環境が危険である」と回答している。

② 公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 前述の通り、対象者は自家用車、自転車を利用しており、普段の買い物時に電車・バスを利用していない。しかし、中心市街地での買い物などの際には電車を利用している方も見られる。
- 電車・バスを利用しない理由は、「自家用車が便利である」、「荷物を持つのが大変である」、「買い物先までの利便性が悪い」、「乗換が煩わしい」である。
- 移動支援サービスの利用意向について、3人が「車に乗れるうちは必要ないが、将来のことを考えたら必要であり、利用することになるかもしれない」と回答している。
- ドアツードアのサービスや地域の方とコミュニケーションが取れる乗合バス、100円バス、電車運賃の補助などの導入を望む回答が見られる。

③ 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 4人が、宅配サービスを利用しており、「商品の品質がよい」という回答である。また、日常生活に必要なサービスのため、利用せざるを得ない状況の中、価格面への不満もある。
- 宅配サービスを利用していない理由は、「必要性がない」、「自分で商品を直接見て選びたい」である。
- 買い物支援サービス全般について、「車が運転できなくなったら、同居家族に頼むため特に必要ない」という回答が見られる。一方、移動販売サービス、購入商品の自宅配達サービス、宅配サービスを望む回答も見られる。

10) 江上校区【対象者は10人】

① 普段の買い物行動や不便状況について

- 買い物際の交通手段は、自家用車（自分で運転）が7人、自家用車（自分以外が運転、送迎含む）が1人、自転車1人、タクシーが1人である。
- 城島校区（8人）や大木町（2人）で買い物をしている。
- 買い物先として、自家用車を利用している方は、片道5～10分圏内のスーパーマーケット、自転車を利用している方は、片道15～20分圏内のスーパーマーケットを利用している。
- 買い物先を選ぶ理由は、「自宅から近い」、「品そろえが充実している」、「ポイントカードがある」である。
- 買い物時の移動に対する不便については、9人が特に感じないと回答している。また、「徒歩で行くには、遠い」という回答も見られる。

② 公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 電車・バスの利用状況は、普段の買い物ではないが、2人が電車を利用する場合もあると回答している。
- 電車・バスを利用しない理由は、「バス停が遠い」、「バス路線がない」である。
- 8人が回答した移動支援サービス（デマンドタクシー）を利用しない理由は、「タクシーの方が便利である」、「自家用車があるから必要ない」、「買い物や送迎などを頼むことができる家族がいるから必要ない」、「事前予約が面倒である」、「運行エリアが限られている」、「いつ到着するのかわからない」である。
- 5人が「利用したい時に乗れる」や「急な用事に対応できる移動支援サービス」など、デマンドタクシーの予約制の見直しについて回答している。その他、市の施設などへの送迎サービス、電車の最寄り駅と大きな病院を経由するバス、タクシーの利用代金の補助などを望む回答も見られる。

③ 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 6人が宅配サービスを利用している。また、理由としては「買い物に行かなくていいので便利である」という回答も見られる。
- 宅配サービスを利用しない理由は、「値段が高い気がする」や「直接商品を見て買いたい」、「一人暮らしには量が多すぎる」である。
- 買い物支援サービスについて、6人がスーパーマーケットまでの送迎サービスや購入商品の配達サービス、電話注文による宅配サービスを求めている。

11) 青木校区【対象者は13人】

① 普段の買い物行動や不便状況について

- 買い物時の交通手段は、自家用車（自分で運転）が10人、自家用車（自分以外が運転、送迎含む）が2人、徒歩が1人である。
- 城島校区（9人）、青木校区（1人）、三潞校区（1人）、大川市（2人）で買い物をしている。
- 買い物先として、自家用車を利用している方は、片道5～10分圏内のスーパーマーケット、徒歩と回答している方は、片道5分圏内の農協の直売所である。また、片道15～20分圏内の大川市のスーパーマーケットなどを利用している方も見られる。
- 買い物先を選ぶ理由は、「商品の値段が安い」、「品そろえが充実している」である。
- 買い物時の移動に対する不便は、13人が特に感じないと回答している。

② 公共交通機関の利用状況や移動支援策の利用意向について

- 電車・バスを利用しない理由は、「自家用車の方が便利」、「バスの運行本数が少ない」、「購入した物が多いため、体力的につらい」である。
- 12人が回答した移動支援サービス（デマンドタクシー）を利用しない理由は、「サービスの存在自体を知らない」、「自分で車を運転するため、必要性を感じない」である。
- 移動支援サービスの要望として、8人が本数が多いコミュニティバスの運行やタクシー利用代金の補助を回答している。

③ 買い物支援サービスの利用状況や利用意向について

- 5人が宅配サービスを利用している。その理由は、「重いものを購入する際に利用する」、「買い物する時間がないため助かる」、「品質や価格が手ごろである」である。また、日常生活に必要なサービスのため、利用せざるを得ない状況の中、「注文および商品の受け取りが面倒である」という不満もある。
- 買い物支援サービスを利用しない理由は、「サービスの必要性を感じていない」や「注文および商品の受け取りが面倒である」である。
- 現在、買い物支援サービスを利用していない方からは、注文が簡単な宅配サービスや移動販売サービス、自分の目で見て商品を選びたいので買い物施設までの送迎サービスを求めている。